

Asia Indicators

発表日: 2023年10月20日(金)

豪州の雇用環境は質・量の両面で頭打ちの兆し(Asia Weekly(10/13~10/20))

～雇用改善の動きをけん引してきた大都市部において環境変化の兆しが出ている可能性～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹(Tel: 03-5221-4522/050-5474-7495)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
10/13(金)	(インド)9月輸出(前年比)	▲2.9%	--	+3.9%
	9月輸入(前年比)	▲15.0%	--	▲2.8%
10/16(月)	(フィリピン)8月海外送金(前年比)	+2.7%	--	+2.6%
	(インドネシア)9月輸出(前年比)	▲16.17%	▲13.50%	▲21.24%
	9月輸入(前年比)	▲12.45%	▲5.50%	▲14.77%
10/17(火)	(ニュージーランド)7-9月消費者物価(前年比)	+5.6%	+5.9%	+6.0%
	(シンガポール)9月非石油輸出(前年比)	▲13.2%	▲14.7%	▲22.5%
10/18(水)	(中国)7-9月実質 GDP(前年比)	+4.9%	+4.4%	+6.1%
	9月鉱工業生産(前年比)	+4.5%	+4.3%	+
	9月小売売上高(前年比)	+5.5%	+4.9%	+
	9月固定資産投資(年初来前年比)	+3.1%	+3.2%	+3.2%
10/19(木)	(韓国)金融政策委員会(政策金利)	3.50%	3.50%	3.50%
	(オーストラリア)9月失業率(季調済)	3.6%	3.7%	3.7%
	(マレーシア)9月輸出(前年比)	▲13.7%	▲16.5%	▲18.7%
	9月輸入(前年比)	▲11.1%	▲12.2%	▲21.2%
	(インドネシア)金融政策委員会(7日物リバースレポ金利)	6.00%	5.75%	5.75%
	(香港)9月失業率(季調済)	2.8%	--	2.8%
10/20(金)	(ニュージーランド)9月輸出(億 NZドル)	48.7	--	49.7
	9月輸入(億 NZドル)	72.0	--	72.4
	(マレーシア)9月消費者物価(前年比)	+1.9%	+2.2%	+2.0%

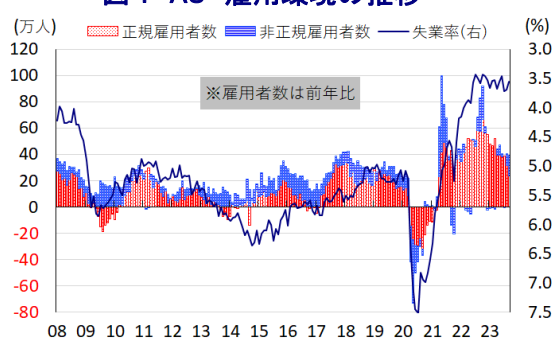
(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[オーストラリア]～失業率は低下の一方、雇用を取り巻く環境には質的にも量的にも頭打ちの兆しが出ている～

19日に発表された9月の失業率(季調済)は3.6%となり、前月(3.7%)から0.1pt改善している。失業者数は前月比▲2.0万人と前月(同▲0.1万人)から2ヶ月連続で減少しており、中期的な基調も拡大ペースが鈍化するなど頭打ちの動きが確認されている上、雇用形態別では非正規雇用に対する求職者(同▲0.0万人)のみならず、正規雇用に対する求職者数(同▲2.0万人)もともに減少している。一方の雇用者数は前月比+0.7万人と前月(同+6.3万人)からペースは鈍化するも2ヶ月連続で拡大して

おり、中期的な基調も拡大傾向で推移している一方、雇用形態別では正規雇用者数（同▲4.0万人）が減少する一方で非正規雇用者数（同+4.7万人）の拡大が全体を下支えしている。地域別では、クイーンズランド州や西オーストラリア州で堅調な動きがみられる一方、最大都市シドニーを擁するニュー・サウス・ウェールズ州や第2の都市メルボルンを擁するヴィクトリア州で頭打ちの動きが確認されるなど、大都市部における雇用環境に変化の兆しが出ている様子がうかがえる。こうした雇用を取り巻く環境変化を反映して労働力人口は前月比▲1.3万人と前月（同+6.2万人）から14ヶ月ぶりの減少に転じるなど労働市場から退出する動きが確認されている。さらに、こうした動きを反映して労働参加率は66.7%と前月（67.0%）から▲0.3pt低下しており、足下の雇用環境は質的にも量的にも頭打ちの兆しが強まっていると捉えられる。

図1 AU 雇用環境の推移

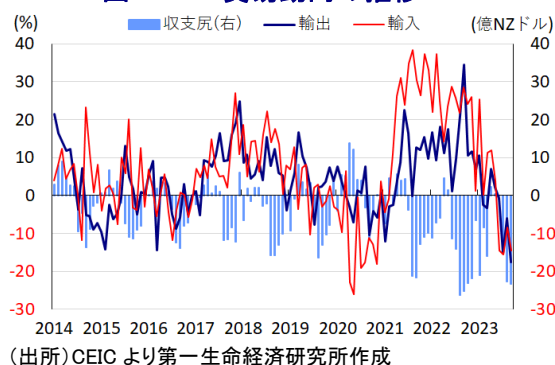


(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

[ニュージーランド]～輸出は一進一退も頭打ちの状況が続く一方、輸入は原油相場も影響して底入れが続く～

20日に発表された9月の輸出額は前年同月比▲17.6%と4ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移しており、前月（同▲5.9%）からマイナス幅は拡大している。前月比も▲1.7%と前月（同+13.3%）から2ヶ月ぶりの減少に転じている上、中期的な基調も減少傾向で推移するなど頭打ちの動きが続いている。財別では、原油価格の底入れの動きを反映して原油関連の輸入額が大きく押し上げられる一方、主力の輸出財である乳製品や食肉関連の輸出が大きく下振れしたことが全体の重石となっている。国・地域別でも、最大の輸出相手である中国向けが力強さを欠く展開が続いているほか、米国やEU、日本など先進国向けのみならず、ASEANなどアジア新興国向けも幅広く弱含む展開が続いている。一方の輸入額は前年同月比▲14.6%と4ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移しており、前月（同▲8.5%）からマイナス幅も拡大している。ただし、前月比は+1.5%と前月（同+0.1%）から3ヶ月連続で拡大している上、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きが続いている。財別では、機械製品関連や電気機械関連の輸入に下押し圧力が掛かる一方、原油価格の底入れの動きを反映して原油や石油製品関連の輸入が大きく押し上げられたことが影響している。結果、貿易収支は▲23.29億NZドルと前月（▲22.73億NZドル）から赤字幅が拡大している。

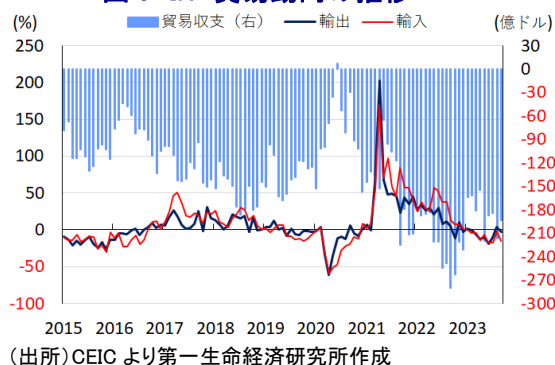
図2 NZ 貿易動向の推移



[インド]～輸出に頭打ちの兆しが出るとともに、輸入に幅広く下押し圧力が掛かるなど双方で鈍化傾向が強まる～

13日に発表された9月の輸出額は前年同月比▲2.6%となり、前月（同+3.9%）から2ヶ月ぶりに前年を下回る伸びに転じている。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比も2ヶ月ぶりの減少に転じている上、中期的な基調も拡大傾向が続くも伸びは鈍化するなど頭打ちの兆しをみせている。財別では、国際原油価格の底入れの動きを反映して石油製品関連の輸出額は押し上げられているほか、宝飾品関連の輸出も堅調な動きをみせる一方、機械製品関連や化学製品関連、縫製品関連、食料品関連など幅広い財で輸出に下押し圧力が掛かる動きがみられる。一方の輸入額は前年同月比▲15.0%と9ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移しており、前月（同▲2.8%）からマイナス幅は拡大している。前月比も2ヶ月連続で減少している上、中期的な基調も減少傾向に転じるなど頭打ちの動きを強めている。国際原油価格の底入れにも拘らず原油関連の輸入額は横這いで推移しているほか、金や宝飾品関連の輸入は弱含む動きをみせている上、機械製品関連や金属関連をはじめとする素材・部材などの輸入額に下押し圧力が掛かるなど、全般的に輸入に下振れしている様子が見られる。結果、貿易収支は▲193.70億ドルと前月（▲217.11億ドル）から赤字幅は縮小している。

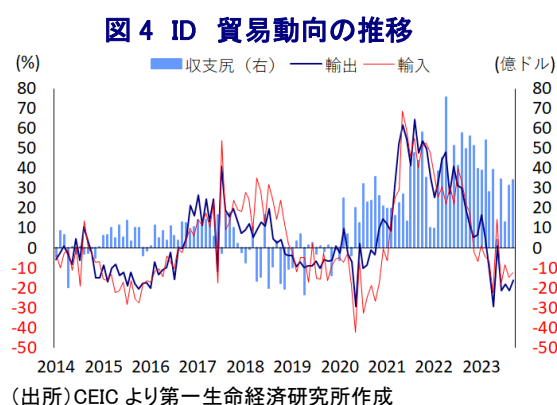
図3 IN 貿易動向の推移



[インドネシア]～原油価格の底入れに伴い関連する輸出入ともに押し上げられるも、全体的には頭打ちが続く～

16日に発表された9月の輸出額は前年同月比▲16.17%と4ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移しているものの、前月（同▲21.24%）からマイナス幅は縮小している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は4ヶ月ぶりの拡大に転じているものの、中期的な基調は減少傾向で推移するなど頭打ちの流れが大きく変化するには至っていない。財別では、原油価格の底入れの動きを反映して原油関連や天

然ガス関連の輸出額が押し上げられているほか、穀物をはじめとする農産物市況の底入れの動きを反映して農産品関連の輸出にも底堅さがみられる一方、鉱物資源関連や製造業関連の輸出に下押し圧力が掛かるなど対照的な動きがみられる。一方の輸入額は前年同月比▲12.45%と4ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移しているものの、前月（同▲14.77%）からマイナス幅は縮小している。ただし、前月比は2ヶ月連続で減少しており、中期的な基調も減少傾向で推移するなど頭打ちの動きを強めている。財別でも、原油価格の底入れの動きは原油や石油製品などの輸入額を押し上げる一方、原油や天然ガス以外の輸入額は下振れして輸入全体の重石となっている。結果、貿易収支は+34.18億ドルと前月（+31.18億ドル）から黒字幅は拡大している。



[マレーシア]～輸出に底入れの動きが確認出来る一方、生活必需品を中心に物価は落ち着いた推移が続く～

19日に発表された9月の輸出額は前年同月比▲13.7%と7ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移しているものの、前月（同▲18.7%）からマイナス幅は縮小している。前月比も+8.2%と前月（同+0.6%）から3ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きを強めている。国・地域別では、最大の輸出相手である中国向けに底打ちの動きがみられるほか、米国やEU、日本をはじめとする先進国向けにも底堅い動きがみられる上、シンガポールをはじめとする周辺のASEANなどアジア新興国向けの堅調さも輸出を下支えしている。一方の輸入額は前年同月比▲11.1%と7ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移しているものの、前月（同▲21.2%）からマイナス幅は縮小している。前月比も+2.1%と前月（同▲1.7%）から4ヶ月ぶりの拡大に転じるなど底打ちの動きが出ているものの、中期的な基調は減少傾向で推移するなど頭打ちの流れが変わる状況とはなっていない。輸出の堅調さを反映して資本財関連や中間財関連の輸入に底堅い動きがみられる一方、消費財関連の弱さが輸入の重石となる状況が続いている。結果、貿易収支は+245.22億リンギと前月（+171.80億リンギ）から黒字幅が拡大している。

20日に発表された9月の消費者物価は前年同月比+1.9%となり、前月（同+1.9%）から2ヶ月連続で同じ伸びで推移している。前月比は+0.08%と前月（同+0.15%）から上昇ペースは鈍化しており、生鮮品をはじめとする食料品価格は落ち着いた推移をみせているほか、国際原油価格の底入れが進んでいるにも拘らず統制価格が採られているエネルギー価格は横這いで推移しており、生活必需品を中心とする物価上昇圧力が後退していることが影響している。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率も前年同月比+2.5%と前月（同+2.5%）から2ヶ月連続で同じ伸びとなるなど横這いで推移して

いる。前月比は+0.31%と前月（同+0.23%）からわずかに上昇ペースが加速しており、エネルギー価格が安定するなかで輸送コストも横這いで推移しているものの、国際金融市場における通貨リング安に伴う輸入インフレの高まりを反映して財価格が押し上げられる一方、雇用回復の動きに一服感が出ていることを受けてサービス物価は鈍化するなど、物価はまちまちの動きをみせている。

図5 MY 貿易動向の推移

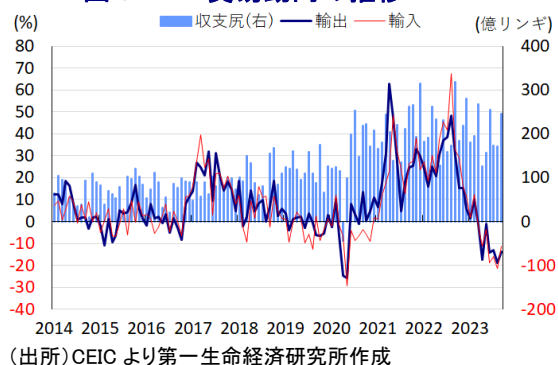
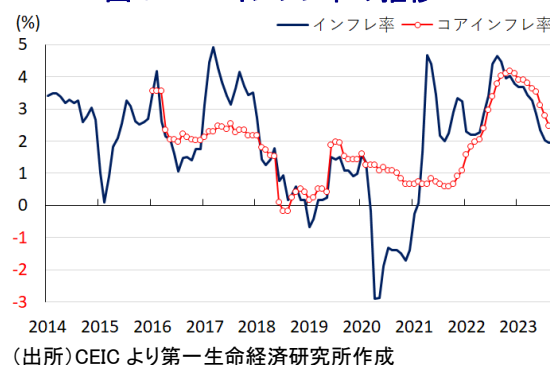


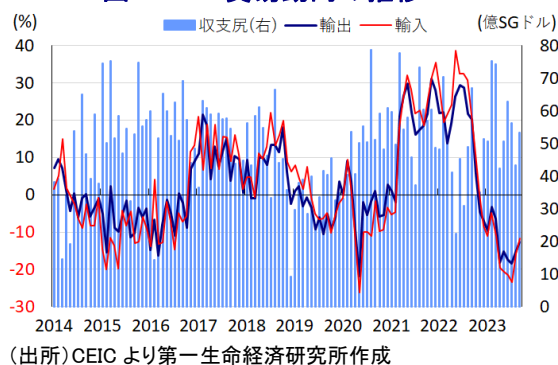
図6 MY インフレ率の推移



[シンガポール]～輸出に底打ち感が出ていることを受け、輸入も底入れの動きを強めるなど双方に反転の兆し～

17日に発表された9月の非石油輸出額は前年同月比▲13.2%と12ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移しているものの、前月（同▲22.5%）からマイナス幅は縮小している。前月比は+11.10%と前月（同▲6.65%）から3ヶ月ぶりの拡大に転じている上、中期的な基調は拡大傾向に転じるなど底打ちの動きが確認されている。主力の輸出財である化学製品関連の輸出は弱含む動きがみられるものの、半導体をはじめとする電子部品関連の輸出に底打ち感が出ているほか、電動バルブをはじめとする電気機械関連の輸出額も押し上げられる動きがみられるなど、幅広い分野で輸出を取り巻く環境に改善の兆しがうかがえる。なお、原油関連を併せた総輸出額は前年同月比▲12.7%と11ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移しているものの、前月（同▲15.4%）からマイナス幅は縮小している。前月比も+5.7%と前月（同▲2.1%）から2ヶ月ぶりの拡大に転じている上、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きが続いている。財別では、輸出に底打ち感が出ていることを反映して機械製品関連の輸入が底堅い動きをみせているほか、原油価格の底入れの動きを反映して原油や石油製品関連の輸入額が押し上げられていることも輸入の底入れを促している。結果、貿易収支は+52.53億SGドルと前月（+43.31億SGドル）から黒字幅が拡大している。

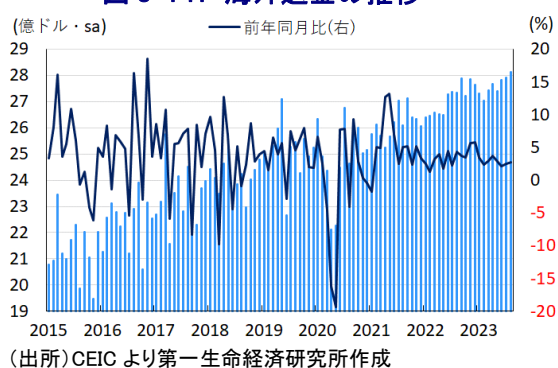
図7 SG 貿易動向の推移



[フィリピン]～米国や中東など、雇用の底堅さや原油価格の底入れの動きが移民送金を下支えする展開が続く～

16日に発表された8月の海外移民労働者による送金流入額は前年同月比+2.7%となり、前月（同+2.6%）からわずかに伸びが加速している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は3ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きが続いている。さらに、当月は通貨ペソの対ドル相場に調整圧力が掛かる動きがみられたため、ペソ建てで換算した流入額が押し上げられる格好となっており、家計消費をはじめとする内需の下支えに繋がることが期待される。国・地域別では、景気の不透明感が高まっていることを反映して欧州やアジア新興国からの流入は頭打ちの動きをみせる一方、全体の4割強を示す米国からの流入が米国国内の雇用環境の堅調さを反映して底堅く推移しているほか、原油価格の底入れの動きを反映して全体の2割弱を占める中東からの流入も同様に底堅く推移しており、送金全体を下支えする展開が続いている。

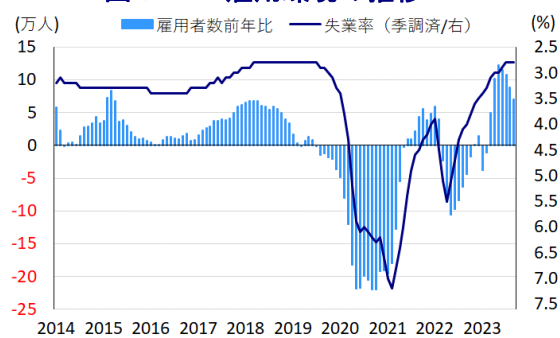
図8 PH 海外送金の推移



[香港]～全体的にコロナ禍後の経済活動の正常化による雇用回復の動きが一巡しつつある様子がうかがえる～

19日に発表された9月の失業率（季調済）は2.8%となり、前月（2.8%）から3ヶ月連続の横這いで推移している。失業者数は前年同月比▲4.4万人と28ヶ月連続で前年を下回る水準で推移しているものの、前月（同▲5.3万人）からマイナス幅は縮小しており、そのペースが鈍化する動きが確認される。一方の雇用者数は前年同月比+7.1万人と7ヶ月連続で拡大しているものの、前月（同+8.8万人）から拡大ペースは鈍化しており、底入れの動きが続いた流れに一服感が出つつある様子がうかがえる。こうした状況を反映して不完全雇用者数も前年同月比▲3.2万人と15ヶ月連続のマイナスとなるも、前月（同▲3.8万人）からそのペースは縮小する一方、労働力人口も同+2.6万人と前月（同+3.6万人）から拡大ペースが鈍化するなど、コロナ禍の一巡による経済活動の正常化を受けた労働市場の回復の動きが一巡しつつあると捉えられる。

図9 HK 雇用環境の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

